

# 鳥取こども学園 学園だより



第 56 号  
2024年12月1日

〇発行  
社会福祉法人  
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地  
電話 (0857) 22-4206  
<http://www.tottorikodomogakuen.jp/>  
題字 尾崎悌之助

## これまで大切にしてきたもの・ これから求められているもの

鳥取こども学園乳児部院長  
兼 とりこころんど所長

竹中 成代



### 「子育て家庭をめぐる社会の状況」

近年少子化が加速し、令和5年に生まれた子どもは約76万人と8年連続で過去最低を記録しています。その一方で児童相談所における児童虐待相談件数は約22万件で過去最多を更新しているのに対して、代替養育を受けている子どもの数は横ばいか減少しており、施設入所に至ったケースは虐待対応件数の0.3〜0.4%に過ぎません。ほとんどは地域で暮らしています。また、ひとり親世帯の子どもとの相対的貧困率は45%にのぼります。子ども・子育て家庭をめぐる社会・経済環境は非常に厳しいものとなっています。

令和6年7月11日〜12日に奈良県で開催された第67回（令和6年度）全国乳児院研修会での横川哲嗣会長による基調報告でも、同様に子育て家庭をめぐる社会の状況が報告されました。鳥取県も例に漏れず同様の傾向にあります。乳児院としてはこれまでの親子分離を前提とする考え方から脱却し、親子を分離しなくても家庭生活が継続できるための支援を探る必要があります。地域から必要とされる乳児院となるために、地域の事情をふまえてどのような取り組みができるのか考えてみるようにと伝えられました。

### 「これまで大切にしてきたもの」

乳児院は24時間365日体制で様々な家庭環境により困難な課題を抱える子どもたちの言葉にならない思いを汲み取り、受け止め、寄り添いながら、専門的なチーム養育により健やかな発達・育ちを保障する日常を営んでいます。また、子どもを真ん中において、子どもにとって何が良いのか、どうあるのが良いのか、何ができるのかなど、多様な専門職による親子関係も含めたアセスメントも行っています。

す。さらに、培ったノウハウを活かし保護者や里親等による地域で暮らす家庭養育に対する支援にも積極的に取り組んでいます。

今年10月に鳥取県の「児童養護施設等を対象とした自然体験活動支援事業（体験の風をおこそう）」を利用して、乳児部のみんなで「鳥取県氷ノ山自然ふれあい館響きの森」へ行ってきました。自然とふれあうことで子どものみずみずしい感受性や五感を刺激し、体験が豊かであればあるほど、言葉を豊かにし、想像力を高め、さらには、それらの活動を通して多くの知識や技能を学ぶことを目的とした事業です。

行ききの貸切大型バスの中では、大きな窓から見える外の景色に「シヨベルカー！」「たか〜い！」等々大興奮で、わくわく楽しくおしゃべりが止まりません。響きの森では係のお兄さんに案内していただき自然探索へ。イモリをそっと手のひらの中にいれて観察し、バッタ、「オロギ、カマキリなどをみつめ興味津々。どんぐりを拾い集めたりすすきの穂綿を吹き飛ばしたり、「はきははき」と言いながら穂をほうきに見立てて道を掃く子どももいました。歩き始めたばかりの子どもは、よちよち、ぶらぶら、時々転びを繰り返しながら、満面の笑みで自由に歩き回りご機嫌。お弁当の時間にはまずは大好物のバナナをほおぼったり、ウインナーパンのウインナーのみを食べたりして満足そうなお子どもたち。職員は食べ過ぎを心配したりパンの部分をもたないからと残さないように食べたり、常に子どものそばにいて子どもが納得、満足するよう寄り添い、危険がないよう見守り、その姿に日々の養育の姿勢が表れているようにほっこりさせられました。帰りのバスではみんな心地良く夢の中でした。

### 「これから求められているもの」

専門性を持つ乳児院である強みを活かす5つの機能の強化を求められています。

- ① 専門養育機能：小規模環境の養育者と課題を抱えた子どもの双方を支援
- ② 親子関係構築支援機能：親の受援力を培い、親子関係を形成。家族機能を回復させ、再出発支援までの支援事業への協力や実施、要対協への参画
- ③ 予防的支援機能：特定妊婦等のハイリスクケースの支援事業への協力や実施、要対協への参画
- ④ 一時保護機能：子どもだけでなく親子の一時保護
- ⑤ アフターケア機能：長期予後の評価・支援を退所児の居住する市区町村との協議で展開

いずれも当法人に既に備わっている施設、センター、認定こども園、事業所等との総合・統合・連携の実現と、市町との協働体制を検討し、地域から必要とされる乳児院であり続けるよう取り組んでまいります。

### 「天の国でいちばん偉い者」

「そのとき、弟子たちがイエスの所に来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのですか」と言った。そこで、イエスは一人の子どもの呼び寄せ、彼らの中に立たせて、言われた。「はつきり言っておく。心を入れ替えて子どもにならないければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子どものようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。わたしの名のためにこのような一人の子どもを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」（マタイによる福音書13章1〜5節）

「いちばん」には、立場や能力等に序列を付け、自分がその最上位でありたいとの願いが込められているのが一般的ですが、イエスの言われる「いちばん」は、子どもたちのように社会で小さく、低くされている人々です。

すべての子どもの健やかな育ちをまもり、誰一人取り残すことのない支援の実現を目指して、これからも更に専門性を高め、機能強化を図り、歩みをすすめていきたいと思えます。

今後みなさまのご理解、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

児童養護施設

## 鳥取いごも学園

## 麻婆豆腐

いごも学園

松岡 沙織

今年からつくし・こすもすホームへ異動になり半年が経ちました。学園内にも銀杏の香り漂い始め、ようやく秋を感じる季節となりました。

4月に異動してからホームで調理をする機会が増えました。とある日のメニューは麻婆豆腐。見た目も色鮮やかに完成し、我ながら上出来です。しかし子ども達が一口食べた途端、「なんだこれ!?!」と驚きの返答が返ってきました。調味料は入れたはず。寧ろ見た目は辛そうなのに何故なのか…。子どもに「りんりん(私の愛称です)も食べてみてよ〜!」と言われて食べてみたところ、衝撃を受けました。なんと、味が全くしなかったのです…色が濃く赤かった為、辛くなりすぎないようにと思いついた私は、よかれと思いき水をたくさん入れてしまっ

たのです。実のところ、私は家族からも台所に立つことを恐れられるほど料理が苦手であり、この日は見事に露呈してしまいました。

「りんりん! 味見した?」

「あ! してなかった…」

「も〜〜!」「りんりんってば〜!」

やってしまった…と肩を落としていましたが、なんと子ども達は『残す』という選択をする事無く、自分達なりのアレンジをして完食してくれたのです。『食』を大事にする姿、私の失敗を責める事なく自分達で策を考える行動力と優しさに救われたと同時に感動しました。今でも料理を作る度に、この麻婆豆腐事件?の話題になります。ですが、この一件をきっかけに『食』に関する話題が増えました。

料理をしながらいごもと一緒に味見し、足りない調味料と一緒に考え、食べにくそうな食材をアレンジするなど、何とか食べやすいようにと工夫して作った時には「美味しい!」と褒めちぎってくれます。「やったー美味しく出来た〜!」と子どもと喜び、こうして作ったんだよ、と話も膨らんでいきます。とんでもないきっかけだったかもしれませんが、

生きていく上で成長にとっても大事な『食』の話ができる事が楽しく、嬉しいと感じる日々です。

私は料理以外でも数々の失敗をしてきました。その時にはいつも子ども達がいって、「あはは〜!」と一緒に笑ってきてくれました。そうして子ども達に助けられ、いつもありがたうという気持ちでいっぱいです。

子ども達と生活をしていると、お互いに助け合い支え合っているからこそ生活だなとしみじみ感じます。なんでも一人で完璧に出来る事が重要ではなく、周りの人に助けを求める事、甘える事が大切であることをこのような私の失敗の中でも感じてくれれば良いなと思います。そして退所した後、助けを求める選択肢としてホームの事が思い浮かんでいけるよう、これからも一緒に、助け合い支え合える生活を大事にしていきたいと思えます。

## 「ナース」と呼ばれて

看護師 保木本 真弓

学園で働き始めてから2年半が経ちました。

皆から「ナース」と呼ばれることが新鮮で照れくさい気持ちでしたが、今はすっかり慣れてとても気に入っています。毎日事務所で仕事をしたり、通院に付き添ったり、体調が悪い子がいればホームの様子を見に行くなど忙しいこともありますが、とても充実して働いています。

看護師と言っても学園にいるのは皆元気な子どもたち。動き始めたころは「私がここで、できることってなんだろう?」と悩んでいたこともありましたが、

そんなある日、園内で走って遊んでいた男の子が私を見かけると、すっとズボンを膝まであげて「ナース! さっき転んだ!」と少し血が滲んだ傷を見せてきます。「どれどれ」と見せてもらって、どこで転んだのかとたわいのない話をして手当て。「すぐ治るから大丈夫」と声をかけると「!」と笑って、また走っていきました。以来彼は小さな傷でも「ナース! 傷できた! 見たいだろ!」と見せてくれます。私は彼の中ではすっかり「傷が見たい人」になったようです。これは他の子にも伝染し、小さな傷もふさがっている傷も私に出会うと見せてくれることがあります。

またある子は「ナースー歯が抜けそう。取ってー」と言っています。私が歯を取ってもいいのかなと戸惑いつつ「どれどれ」と見せてもらおうと、乳歯がほとんど抜けかかっています。どうしようかと迷いましたが「べらべらぶらぶらしていたら食べにくい」と言っただけでかしてあげたい気持ちで勝ち、歯を摘まんでみるとあつという間に取れてしまいました。取れた歯を見せると「やったー抜けたー」と大喜び。以来歯が抜けそうになったら「ナースーとてー」と言っただけで取れます。まだじつかり付いていれば「もうちゅと待とうね」と一緒にとれる日を楽しみにし、もう抜けるという時には乳歯に最後の一撃を与える名誉な役目を何度かもらっています。

「どちらの子も、遊んでいる間は忘れていてすぐ困っていた訳ではないのでしよう。病院に行ったりするほどのことではないけど、私の顔を見て「そっだ！ ナースに言ってみよう。」と思ってくれたこと。私のことは「ちよつと体に詳しくそうな人」というくらいかもしれませんが役割を理解してくれ、「ナース」を頼ってくれて嬉しかったです。

突発的な病気や予期せぬケガの対応だけでなく、基礎疾患があり定期的な通院やケアを必要とする子もいます。病気やケガの軽重に関わらず、子どもが身体のことでも困った時に適切な対応をし、早く安心して心身ともに元気な生活を送ることをサポートしていくのが私の役割だと感じました。これからも子どもたちの成長と一緒に喜んで、体調を心配したり、子どもに手当てするとホッと安心する感覚を感じてもらったりして、自分の身体を大切にすることを伝えていきたいと思っています。

児童心理治療施設  
**鳥取子ども学園希望館**

**膝小僧の沈黙**

わかばホーム  
ホーム長 尾崎 靖

「右向け右！」と言われれば左を向こうとする。人からやりなさいと言われればやらないと答え、やらなくて良いと言われればやりませんと答える。周りからは協調性のない身勝手な男だと非難され肩身の狭い思いをしているが、これが自分なのだから仕方がない。

集団行動が苦手な私ではあるが、どういわけかたくさんの子ども達と一緒に学園での生活を送らせてもらっている。私が一緒に生活しているホームにも個性豊かな子ども達が溢れている。その中の1人。おとなしく素直で優しいN君。彼には強いこだわりがある。彼がとても大事にしているお気に入りのスポン。柔らかい素材の真っ黒なスポンのだが、このスポンを毎日のように使っている。

1年中毎日毎日使っているから、当然スポンはへたってくる。だんだんと生地は薄くなり、ついには膝の部分に穴が開いてしまった。それでも彼は全く気にする様子はない。職員もスポンに穴が開くたびに縫い直すのだが、またすぐに穴は開いてしまうのである。

そんなある日。「N君。他にもスポンは持っているのに、どうしていつも穴が開いたそのスポンばかりはくの？」と私は尋ねてみた。すると彼は首を振りながらこう答えた。「だって他のは全部窮屈なんだもん。」なるほど……。そういうことだったか。彼はきつと締め付けられる肌感が嫌だったのだ。それならと思ひ、

「じゃあ、N君。半スポンにしてみたら？ 半スポンだったら締め付けられない涼しいし、良いんじゃない？」そう伝えると彼はとても困った顔をして、「うーん……。でも僕は肌を出すのが苦手なんだ。」と言って下を向く。しかしよく見ると、その視線の先には破れたスポンの穴からぽっかりと膝小僧が顔を覗かせているのだ。私は思わず、「その膝小僧はどう説明するつもり？」と聞いてしまいそうになったがその言葉を必死にこらえ、2人して膝小僧を見つめ合っただけでした。

人には個性があります。みんな違ってそれで良い。いろんな思いやこだわりを持って人は生きています。私たち大人が大切にしなければならないのは、個を認め個を育むこと。そのことは十分に理解しているはずなのに、職員としての立場上なのか、個を認める前に正解に近いと思われる方向に導こうとしてしまう。自分が一番嫌いなことだと知っていながらも。正解なんて人によって全く違う。自分の正解は相手の不正解。頭が固くなってしまうとこんな当たり前のことに気付けなくなってしまうから恐ろしい。

N君の膝小僧は決して何も語ることはない。しかし、破れたスポンの穴からい

つも顔を覗かせながら、大切なことは何なのかを伝え続けてくれている。私にはそう感じるのだ。

### 百聞は一見に如かず

「通所よ」と。一度きてみて」

鳥取子ども学園希望館

通所ブロック長 宮井潤子

鳥取子ども学園のことをご存じの方は多くても、鳥取子ども学園希望館「通所部門」のことをご存じの方は少ないと感じています。必要としている方に、是非とも届いてほしいという思いを込めて紹介させていただきます。

通所部門は、鳥取市立東中学校・修立小学校と協働で設置する『分校分教室』と不登校児童等グループケア『てくてく』があります。「学校に行きにくいな」「人とどう関わったらいいんだろう」「などの悩みを抱えているお子様、ご家族のサポートを行っています。では、それぞれの取り組み内容について説明します。分校分教室は小さな学校です。学校の先生がいます。

① 習熟度別による学習の形態をとっています。

② 華道、ヨガや様々な行事を通して、経験不足を補います。

③ セラピスト主導で、関係づくりや自己表現力等を高める取り組みを行っています。

④ 『マイプラン』という通所部門独自の取り組みとして、めあてをもって、生活・学習に取り組み、ふりかえる時間を大切にしています。

この4つの軸を福祉的視点と教育的視点を融合して行っていることが大きな特徴です。

てくてくは、学校などへの社会復帰に必要なその場で過ごすための体力づくりをする場所というようなイメージの場所です。

① 身体能力の向上や基礎体力アップを目指す時間。

② 学習は知ることの喜びやできる喜びの体験を通して学びの意識のきっかけづくりの時間。

③ 体験活動では、生活・社会経験不足を補う時間。

④ グループ活動では、集団でのルールを知り、協調性を養う時間。

⑤ 個別／集団心理療法を取り入れ、自己理解、相互理解を深め人間関係作り

のスキル向上を目指す。

このような療育的視点に重きを置いてプログラムを構成しています。

とはいえ、集団へ入って生活していくことを目指すことが前提ではあるものの、そこには個々の土台が必要になります。それぞれの気持ちや状況を考慮し、丁寧にオーダーメイドのサポートを組み立てていきます。

分校分教室の職員室には、中学校の先生、小学校の先生、希望館職員が席を並べ、タイムリーなコミュニケーションを取っています。このような形態は全国的にも珍しく、教育と福祉の『奇跡のコラボレーション』と言っても過言ではないようです。

今年度から、更に、新たな取り組みとして、昨年度まで1階と2階に分かれていた分校分教室とてくてくの職員を一体化し通所部門職員として、より責任を持った



多目的スペース★パティオ

サポートができることを目指しています。

今のようにフリースクールや第三の居場所などがあまり無かった30年前の希望館開設当時から希望館通所部門はありましたが、手前みそですが、その当時からすれば先駆的な取り組みでした。時代は流れ、現在は受け入れ先がたくさんできたことは、世の中の受け皿が広がったと捉えるべきなのでしょう。しかし、そんな歴史ある希望館通所部門だからこそ、今、必要とされる方に届けばと思っています。

ここでお伝えしきれなかったことがたくさんあります。見学やご相談など随時受け付けております。お気軽にお問い合わせください。ブログもぜひとせと更新中ですので覗いてみてくださいとつれいいます。

乳 児 院

**鳥取子ども学園乳児部**

### パワーの源

保育士 中 林 美 香

コロナ禍が明け制限もなくなり、他ホームとの交流、お出掛けなど行動範囲

も広がり伸び伸びと過ごしています。日常の何気ない子ども達の可愛い仕草や様子、思わずにやり、心がほっとするような「にやり・ほっと」エピソードを各ホームから集めてみました。心温まるエピソードをお届けします。

### 〈かりんホーム〉

「口ナ禍が収束し、子どもと大人が一緒にご飯を食べられるようになった時の事。

朝食時「今日はみんなと一緒にごはん食べるよ」と言つと、「ここ来て」といっしょに食べよう」と言つて、椅子をずらし座る場所を作ってくれました。お箸を持たせてくれたり、お茶碗を取ってくれたり、おかずを食べさせようとしてくれる子もいて、みんなにお世話をしてもらいながら食べました。みんなで食べる」と、ささいな事がとても楽しくて、ワイワイと盛り上がります。会話が成り立っているのかいなのかよくわからないけれど、みんなが笑顔でも幸せな気分になります。そんな時、子どもたちも同じ気分になってくれているといいなと思います。

とある日の夜、就寝前のくつろぎタイムにひとりの子が吐いてしまいました

た。汚れてしまった数枚の布団を前に、さてどうしたものかと困惑した様子を見かねたのか、一番年長の子が「○○（職員の名）がんばれ！」と手を叩くと、他の子どもたちも一緒に「○○、がんばれ！○○、がんばれ！」と手を叩いて応援してくれました。こうなったら、がんばらざるを得ません。「○○、がんばるよ」と言つて、子どもたちの声援を受けながら、何とか片付けを終わらせた。その後は、残った布団を敷き詰めて、横になったり縦になったりしながらみんなで寝ました。今でも時々この時のことを思い出します。すると不思議とむくむく元気が湧いてくるのです。

### 〈くるみホーム〉

1歳のAちゃん。7月上旬に宙立ちが出来るようになると、そのうち1歩2歩と足が前に出るようになり、月末には1mほど歩けるようになりました。職員が「おいでー」と手を伸ばすと、「ニニニ」しながら一生懸命歩き、職員にダイブ！時には転んだり尻もちをついたりしてしまふ事もあります。Aちゃんは諦めません。「すびーいー」と喜びとAちゃん

も嬉しいようで一緒に拍手をして喜びます。その距離は日に日に伸びていき、あつという間に部屋中をトコトコと歩いて移動できるようになりました。方向転換もお手の物。子どもの成長は著しいなと改めて感じます。先日ファーストシューズを購入しました。お外が大好きなAちゃん、一緒にたくさん散歩しようね！

この夏、乳児部ではカブトムシを飼育し、虫好きな子どもたちが順番でお世話をしていました。Bくんもその一人。カブトムシのゼリーを新しい物に交換したり、霧吹きで土を湿らせたりと大忙しです。また、床に新聞紙を広げて自由に歩かせ、「かっこいいねえ」と目を輝かせています。カブトムシに会いたいがゆえに、土に潜っているところを掘り起こすこともあります。(カブトムシさんごめんさい) 気が付けば30分以上お世話していることもしばしば…笑。夕方になり少し気温が落ち着くと、今度は外に出てセミ探しです！職員が網で捕まえ、Bくんが虫かごに入れる担当です。セミを持ち、裏側をじっくり観察するBくん。将来は虫博士かな？

### 〈どんぐりホーム〉

3歳のCくんは、どんぐりホームの最年長です。いつも元気いっぱい、ムードメーカーなCくんは、日々たくさん事に挑戦しています。

パジャマのボタンを自分で留める練習をしていた際、なかなか上手くいかず、汗をかきながら練習をするCくん。途中で疲れたのか「やってー」と泣きそつな声で言ったため、手を貸そうとするといや、自分で！とまた頑張つてボタンを留めようとしています。長い格闘の末、ようやくボタンを留めることができる



「ぶー」と一息ついた後「やったー！」と職員と一緒に大喜びしました。

また別の日には、デザートゼリーの蓋が開かず苦戦していました。なかなか自分の力では開かないように「やってー」と職員に助けを求めてきました。ゼリーを受け取り開けようとする「ちよっただけやっぺ。」と言ったため半分ほど開けただけです。何度か「ん〜」と声をあげながら開けることができ、「できた」とニコニコでゼリーを食べ始めました。

自分でやりたい気持ちと上手いかないもどかさの中で、頑張って挑戦しやり遂げるくんは、とてもかっこよく輝いて見えました。

いかがでしたでしょうか。乳児部の子ども達は成長が著しく、一瞬一瞬を逃さないよう日々向き合っています。その中で一緒に成長を喜び、次への挑戦へ繋げられるよう日々心がけています。子どもたちから学んだり、気付かされたりすることも多くあります。嬉しい時には一緒に喜び、悲しい時には慰め合い、時には葛藤もしながら毎日

が楽しく元気に過ごせるよう頑張っていきたいと思えます。これからもたくさんさんの「にやり・ほっと」するエピソードをみつけていきます。

認定こども園  
**鳥取みどり園**

◆ひよこ組(0歳児)

元気いっぱいかわいいひよこ組の子どもたち。保育教諭との一対一の関わりから、色々な物や友達に興味を抱き、触れ



たり見たり親しみを持つようになってきました。友達への関心も芽生え遊びをまねるようにもなってきました。



◆りす組(1歳児)

保育教諭や友達と一緒にグラウンドで駆け回ったりボールを追いかけたりと元気いっぱいな28人のりす組さん。砂遊びや虫探しなど自然に触れて遊ぶことも大好きで、「見て見て、とんぼー!」「まてまてー!」と秋の空を飛ぶトンボに大喜びです。涼しくなったらたくさん散歩に出かけて秋見つけたいと思っています。

◆うさぎ組(2歳児)

うさぎ組の1日は歌から始まります。ギターやボンゴやシンバルやカウベルの音に合わせて、手拍子をしたり立ち上がって身体を動かしたりしながら大きな声で歌っています。「次は〇〇がいい〜!」「〇〇が歌いたい〜!」と、レパートリーも増え、リクエストが次々に出ってきます。心と体を「ワクワク」と「たのしい!」





でいっぱいになりながら色々な遊びを毎日楽しんでいくつぎ組さんです。

◆にじ組(3歳児)

雨上がりのグラウンドで遊びました。最初は恐るおそる足をつけていた子どもたちでしたが、だんだんダイナミックに「こっちの水たまりは冷たいよ!」と日陰の水たまりとひなたの水たまりの温度の違いに気付き「こっちはプール、あっちは温泉みたい!」と行き来しながら楽しんでにじ組の子どもたちです。

◆つき組(4歳児)

紙皿の中心をくり抜き、カラーセロハ

ンを貼って覗くとどんな世界が見えるかな?と園庭に行きました。地面を見ると、太陽の光でいろんな色が映し出され、大喜びの子どもたち。友達と色を重ね合わせ、「色が変わったよ!」「どうしたら映るかな?」などと思いを巡らせ、自分の思いや考えを伝え合う姿が見られました。不思議さを感じ、好奇心を育て体験となりました。



◆ほし組(5歳児)

『風紋散歩&「ナン」列車を見よう!』

楽しみにしていた風紋散歩(職業体験

の)当日。バスに乗って鳥取駅へ出発!!

風紋広場に集合し、いよいよ職業体験の

スタート。駅の中の売店(シャミネ)で商品出しのお手伝い、警察官体験、看護師体験と普段経験できない楽しい事をたくさんしてもらい笑顔いっぱいの子ど



もたちでした。体験の後は駅のホームに上がり問近で「ナン」列車を見ることができました。大喜びの一日でした。

みんなで

やり遂げた運動会

副園長 山根 愛

今年も年長担任になり、毎日子どもたちの元気にパワーをもらって過ごしています。年長さんにとっては今年の運動会は園生活最後となる運動会。子どもたちと競技の内容を決めていきました。「こういうところをみてもらいたい」「こっちは決めてもらいたい」「みんなだて決めてもらいたい」と種目の内容が少しずつ決まってきました。また、それと同時にあこがれていたマーチングの曲では、いろいろな候補が出てきた中、『ガッチャマンのうた』に決定。担当する楽器も決まり、いざ楽器を持ってみると「重い」「肩が痛い」と…。でも「みんなで頑張らないといい音がな」と日々の練習を続け、少しずつリズムを覚えて演奏できるようになっていきました。しかし、パート練習では揃っていても、全体で合わせるとなかなか揃わ



なかつたり、歩きながら演奏する難しさを感じたり…。また、今年は例年以上に猛暑が続き、グラウンドでの練習もなかなかできませんでした。それでも子どもたちはみんなと音やリズムを合わせることの心地よさを感じていきました。自由遊びの時、自ら楽譜を出してきて練習をしていると友達も寄ってきて数人で「ウンタン、ウンタン」と口で言いながら練習をする姿に見ていた私も思わず嬉しくなりました。運動会の日まで「あと〇日」「ドキドキワクワクしながら当日を楽しみに、そして迎えた本番。マーチング、かけっこ、障害物競走、リレーとお家の

方の前で緊張しながらもやり遂げた運動会。友達と協力して最後まで頑張った達成感と充実感でどこか誇らしげな表情の年長さんでした。また、保護者の方の我が子を見て微笑まれる姿に見ている私も嬉しくなりました。ほしぐみさん、大成功だったね。

## 自立援助ホーム 鳥取フレンド 鳥取スマイル はればれ

### スマイルラボ始動!!

統括寮長 田村 崇

日頃より自立援助ホーム鳥取フレンド、鳥取スマイル、はればれ3ホームへの温かい眼差しやご支援をいただき誠にありがとうございます。

なんらかの生き辛さを抱えながら日々自立に向けて生きている若者たちがいます。少しでも自立へむけての術を得てもらえたら」という思いを抱きながら若者たちと一緒に生活をともに

しているスタッフがいます。不完全ではあるものの、何らかの自信やめぼしをつけホームを出て、アパート暮らしなどの自活生活を始めるOGやOBたちがいます。

みんなそれぞれに課題があり、悩みがあり、不安があります。自分が思うように生きていけないと感じているとも思います。誰にとっても完璧に(思い通りに)生きるというのは、難しいことなんだと思います。それでも生き続けていってほしいとわたしは願うのです。

人生において楽しみや喜びを感じることもとても大切な要素だと思っています。しかし忙しい日々の生活に追われ、ただただ毎日が過ぎていくというのが現実なんだと思います。

11月3日、鳥取スマイルは、こども、OGOB、職員等に繋がる機会を提供し、親睦を深めて笑顔を生み出す居場所づくりを目指す!!”というコンセプトで『スマイルラボ』を始動しました(鳥取スマイルに隣接/西町3丁目4-7番地)。まずスタートを切って、今後の展開を模索していくという段階ですが、竹中愛彦寮長は「OB OGは居場所ではなく、人々を求めています。時間が経てば寮

生の入退所、職員の移動によって知らない人ばかりの施設になり、横の繋がりがけでは疎遠になってしまいます。OB OG・寮生、職員を巻き込んだイベントを定期的を実施することで縦の繋がりを生み出したいと思っています。いつ来所しても知っている人がいる場所づくりを提供したいと思っています」という思いを持って臨んでいます。中心スタッフを担う國本京子保育士も「OB OGにも新しい家族をつくり生活している子たちもいます。これまでの関りの中で、彼ら彼女らには、実家が、がないということを痛感しています。ふとした時に気軽に立ち寄れる、実家、をつくってあげたいと思っています!」と力強く語ります。

人と人がつながる場所。誰と誰でもいいんです。縁がありそこで出会う。そして、そこから生まれる化学反応をわたしはとても楽しみにしています。

独りきりは、やはり寂しいものなのです。ちょっとしたきっかけと勇気、「行ってみようかな」というちょっとの決断が、次の展開を創ってくれます。ぜひみなさま、お時間が許された瞬間がありましたら、ぜひこの『スマイルラボ』を思い出し、ちょっと

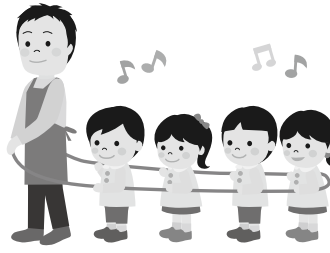
りの決断をして足を運んでみてくださ  
い。そして一緒に頑張って次の展開を模  
索しませんか？

新任職員のご紹介



支援員  
中 内 凌

7月から鳥取スマイルでお世話になっ  
ております。学童保育指導員の経験を通  
じて、子どもと遊ぶことの大切さを学び  
ました。鳥取スマイルでも寮生と一緒に  
遊んで楽しく過ごしていきたいと思いま  
す。よろしくお願いたします。



児童家庭支援センター

子ども家庭支援センター  
「希望館」

所長 遠藤 信彦

子どもたちの  
遊ぶ声を聞いて

当センターの事務所には、外で子ども  
達が遊んでいる声がよく聞こえます。セ  
ンターが所在している当法人本部は、川  
辺に面した自然豊かな立地で、先達が植  
えた木立が繁り、広い芝生もあり、ボー  
ル遊びや虫取り、かくれんぼや鬼ごっこ  
にはうってつけです。年長の子が年少の  
子を気遣って遊ぶ姿もよく見られます。  
うちの子どもの遊びの様子はわかりあ  
い、昔ながらだなあとありますが、日本  
の子どもの遊びは時代とともに大きく変  
わっていると言われています。

戦後の頃など、故藤野興一会長や年長  
の里親さんから聞くには、食べることが  
重要な遊びの一つだったそうです。野山  
に入って季節それぞれにイタドリやグミ  
やムカゴをむしり、シイノミを集め、ア

ケビヤザクロやイチジクを収穫してほお  
ばったそうです。忍者が追手から逃れる  
ときに撒いたという、池に浮かぶ『ヒシ』  
は、固く尖った殻を剥いて塩茹ですると  
大層おいしいおやつになったそうです。

昭和の終盤、僕などは、おもちゃの工  
作に夢中でした。割り箸で銃身と引き金  
を作り、輪ゴムを引っ掛けて飛ばす『割  
り箸鉄砲』や、空になった糸巻きに通し  
た輪ゴムを棒でねじり、置くと走り出す  
『糸巻き戦車』などなど。シンプルなおも  
ちゃで、時にはケガもしましたが、刃物に力  
を入れるときは刃の先に手を置いてはい  
けないことを、小さな痛みとともに学び  
ました。また、出来合いのおもちゃは遊  
びが限定されますが、手作りのおもちゃ  
は創意工夫の余地があり、完成するまで  
の過程も、完成した後の発展改良もオツ  
なものでした。鉄砲の前後のしるしを微  
調整して命中率を高め、糸巻きをデコボ  
コに削り、摩擦力を高めてじゅつたんを  
走破させました。今もDIYに興じてい  
るのは、この頃のとときめきが原点です。  
令和の現代、野山での採集も、肥後守  
での工作も奨励されていません。日中、  
大人が家にいないことが増え、ご近所や

親戚による見守りが少なくなり、ガキ大  
将がさまざまな歳の子ども達を率いる姿  
も見なくなり、見通しが悪くなって死角  
が増え、危険防止が徹底され、これらの  
どれが理由なのか、昔ながらの遊びをみ  
ることが少なくなりました。このような  
中、台頭してきたのがスマートフォンや  
ゲーム機によるデジタルゲームですが、  
子どもによっては一日中一人きり部屋に  
こもり、そればかりになってしまい、健  
康やコミュニケーションに支障をきたす  
ことがあります。このことについて興一  
先生は「大人がもっと圧倒的におもしろ  
いことを教えて、一緒に遊ぶしかない」  
と言われました。「わしゃあネットだの  
テレビゲームだのはよくわからんが」と  
前置きしていましたが、さすが興一先生  
というところで、先日著名な教育評論家  
が全く同じことを言っていました。

じっばひとからげに、昔は良かった、  
など言う気は無いのですが、現代日本で  
は大人が工夫と段取りをして、時にはお  
金を費やさないと、さまざまな体験の機  
会を子ども達に提供できないと言われて  
います。危険から遠ざけるあまり、か  
えって不安全感を感じできなくなったとい  
う研究もあります。

願わくは子ども達がみな、たくさんのごことに興味を持ってほしいと思います。安全安心が確保された上で、五感を駆使し、ときめきを探究して、力いっぱい遊んで欲しいと思います。そして大人達はたくさんのおもしろいことを伝承し、時には一緒に熱中して、子どもと遊んで欲しいと思います。

※子育て・家庭についての悩みなど、子どもに関するあらゆる相談に応じます。相談料は無料です。

○電話相談

平日／月曜日～金曜日

朝8時30分～夜0時

(緊急の場合は、時間外も24時間対応)

○来所相談

開所時間 平日／月曜日～金曜日

朝8時30分～夕方5時30分

専門の相談員が応じます。

里親支援センター  
里親家庭サポートセンター  
いろは

里親リクルーターの  
はじめの一步

里親リクルーター 宮橋 佐和子

この春、里親支援センターとしてスタートし、新しい挑戦の連続の日々を送っています。里親リクルーターの使命は、やはり「里親を広めること」です。しかし、なかなか具体案も出せず里親リクルーターとして何かしないと、という漠然とした焦りが募っていくばかりでした。

転機のひとつとなったのは、7月に山口県の里親支援センター「里親養育サポートセンターれりーふ」に視察に行ったことです。そこで見たリーフレットや啓発グッズは、メッセージが分かりやすく、何より明るい印象のものばかりでした。「アイデア次第でなんでも形にできるのだ」とたくさん刺激をもらいました。

鳥取に帰った私は、形にこだわるのではなく、ちょっと立ち返り、「いろはは、どんな願いで里親を広めたいのか」「その願いが響く言葉は?」と、スタッフみんなまでホワイトボードに書き出しました。「里親になりたい」そんな里親の決心をともに歩みたい、という願いから、「里親のはじまりをいろは」という合言葉にたどり着きました。

私の里親リクルーターとしてのはじめの一步は、ホームページです。どんな言葉が響くのか、アクセスしやすい工夫など、妥協せず作っては直してを繰り返しました。何度も試行錯誤する日々でした。このホームページは、情報発信だけではなく、アクセスした方に「そうだ、いろはに聞いてみよう」と思ってもらいたいという願いを込めました。

妥協せずにした結果、公開が、里親月間でもある10月となりました。ホームページの公開がゴールではなく、リアルタイムな情報発信や話題提供を心がけ、みなさんと一緒に育てていくホームページにしていきたいです。



啓発カード (表面)



啓発カード (裏面)

就労継続支援B型作業所

# はまむら作業所

## そっと教えてもらった事

管理者 山岡 宏樹

記録的に長かった猛暑も終わり、はまむら作業所は先日、お米の収穫を無事済ませることができました。稲刈り当日、集合時間はバラバラでしたが、利用者さんもスタッフもみんなで田んぼに集まりま



した。コンバインが稲を刈るのを見たり、畦にある道具をお話ししながら片づけたり、いつもはあまり気にしないけど、農道に利用者さんと並びながら、空を眺めたり。送迎車で途中合流してきた方も、普段事業所内で作業や過ごす事が多い方も、稲刈りの現場に来て様子を眺めて現場の雰囲気を感じました。利用者さんのひとりが、「なんか空がいつもと違わん？何か気持ちがあええなあ、鳥も3羽もあるが！」と話され、スタッフも「本当だ、何か気持ちがあええなあ。」と続きました。この雰囲気、何かはまむら作

業所っぽい、いいところだなと感じた瞬間でした。

私達が普段気にしない空の変化に気づき、秋の訪れをそっと教えてくれた利用者さんのその感覚に感動しましたし、そのような変化に繊細な方であることを気づかされた日だったように思いました。

日々の送迎に始まり、朝礼、昼食、就労活動やその他の活動をほぼ毎日一緒に過ごしていて、ほとんどの事が当たり前の感覚で、言われなければわからない変化もあると勉強になりました。

大体の事が、季節が変わっても日課としてそんなに変化も少なく、また明日も同じような事が続くだろう、そんな感覚があります。それはそれで、幸せな事なのですが、実は毎日違って、利用者さんも、スタッフも、また事業所に送り出して下さる御家族や地域の方も日々の変化があります。時々立ち止まり、その変化がわかる感覚のアンテナの調整が必要だと学びました。それは、自分自身の気づきであるとともに、いろいろな方との関わりの中でしか学べないことであり、それは利用者さんとの時間や、地域の方と一緒に活動

をして下さる方々、事業所を応援してくださっている法人内外の方々との時間の中にあります。

私達は、日々の作業や支援等だけでなく、その変化に気づける事も大事にしたいと思っています。利用者さん、事業所に関わる方が、はまむら作業所に今日も来てよかったと思えるような雰囲気作り・活動となるよう努めたいと思っています。引き続きご指導宜しく願います。



## 診療所

## こころの発達クリニック

こころの発達クリニックを  
よろしくお願ひします

看護師 大西 理香

私は、こころの発達クリニックに配属になって以来、何年経ったのかわからないほどがむしゃらに突っ走ってきました。(実際何年経ったのか覚えていません。)初めてのレセプトコンピュータに診断書に行政との絡みなどわからないことだらけで、教えていただいてもなかなか頭に入らず私にはできない、そればかりの日々を過ごしていた時期もありました。

そのような中、私は川口先生の人柄に触れることができましたので、先生の許可なく紹介をさせていただきたいと思ひます。

2021年12月27日月曜日の出来事です。川口先生に年末の挨拶をラインした際「こんばんは。今日は危険な雪道でありがとつございまして。本当に助かりました。また、今年は私の〇〇にお疲れに

なられたでしょうね…」と労い・優しく溢れた返信をくださったのです。威張ることなくこの目線を等しくして下さる姿勢に私は感銘いたしました。

2022年4月6日水曜日の出来事です。その日はクリニック勤務日、クリニックのカルテ庫は入ってから照明をつけるようになっていきます。私がカルテ庫を開けると大きな黒いクモが走っていたのです。川口先生が診察後に疲れてクリニックに戻りカルテ庫のドアを開け照明をつけようと足を踏み入れクモを踏んでしまったら、さぞかしショックであろうと思ひ、カルテ庫に大きな黒いクモがいること、捕らえること(ほうきで捕まえて外に逃がす)ができなかつたこと、気を付けてほしいとのラインを送ると、先生から「こんばんは。お友達のクモさん、ありがとつございませう。共生しているので逃がさなくても大丈夫です。」と返事が来たのです。共生しているー確かにそつですが…皆さん、大きな黒いクモを見つけて共生していると唾に思えますか?私はそれ以来、家の中でクモを見かけても先生の言葉を思い出し「共生している」と唾に思えるようになりました。そしてたまに「殺さないから出て行ってね」と優しいのか残酷なのかわ

からない言葉をかけております。まだまだ川口先生の自慢はたくさんありますが、許可なく紹介をさせていただいておりますのでこの辺りでもやめようかと思ひます。

さて、こころの発達クリニックでは、学園児童とOB、OGや地域の方々を対象に診療をしています。こどもたちも通院される方も様々な悩みや思ひ、事情をかかえながら日々を過ごしておられます。診察を終えた皆様が笑顔で帰っていただけるように、こころの発達クリニックに来て良かった、明日から頑張ろう、と思っただけのよう寄り添っていきたい気持ちで接しております。時にはこちらがミスにしても患者様の温かい言葉で助けられることもたくさんあります。患者様とコミュニケーションを取る度に真面目さや優しさに触れ、頭が下がることもあり、自分がまだまだできていないなあ、と反省材料になることもあります。

最後になりましたが、今後も川口先生を中心に、こどもたちや地域の方のために精一杯努力し、こころの発達クリニックを盛り上げていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 新任職員のご自己紹介



事務員

福田 真実

今年度7月より、こころの発達クリニックの事務員になりました。

私は子供が大好きで子供に関わる仕事に就きたいとずっと思っており、鳥取こども学園に就職させていただきました。常に感謝の気持ちを忘れず、クリニックに来院される患者様との関わりを大切にしながら精一杯頑張りたいと思ひますので宜しくお願ひ致します。

## 事業所内保育施設

## とらりっく

「おはよう」の挨拶で  
はじまる一日

保育士 田中 望美

昨年度より、とりっくらんどの一員となり2年目を迎えました。

子どもたちの発見や驚き、気づきがあふれる姿に笑顔をもらい、成長を感じ学ば日々です。

私は朝の子どもたちを迎える時間が大好きで「ピンポン」とインターフォンが鳴ると、今日はどんな表情や挨拶で、とりっころんと来てくれるかな」とワクワクしながら玄関へと向かい、扉を開けます。

今朝の子どもたちの姿をご紹介しますと「おはようございます」の挨拶は、はにかんでうつむくくん。時間差はありました。おはよう」と恥ずかしそうに挨拶をしてくれました。靴を脱ぐ間もなく、玄関のカタツムリに目を向けた



あと、「こちらを向いて」おはよう」と挨拶してくれたくん。脱いだ靴を、真剣な表情でもう一度履きなおい「おはよう」と挨拶してくれたくん。玄関の扉が開くとすぐに「おはようございます」

と挨拶してくれたHちゃん。保育室に入ってからが本番！満面の笑みで「おはよう」と挨拶してくれたRちゃん。大好きなお母さんお父さんに「行ってきます」

のハグをしたり手を振ったり、ドアが開まるまで見送ったりと、同じ毎日はありませんが「おはよう」の挨拶で子どもたちを迎え、とりっころんどの一日が始まります。

とりっころんどの子どもたちが大好きな私は、みんなから「のぞみ先生」と呼ばれているのですが、今まで「田中先生」と呼ばれていたこともあり、呼ばれ始めた当初は内心ソワソワしていました。しかし幼い子どもたちに



とってはなかなか発音してくれなくて…」

〇せえんせえ」と呼んでくれますが、うまく聞き取ることが出来ず…「先生のお名前呼んでくれたの？」と聞き返そうとすると、「こちらをじーっと見つめてもう一度呼びかけてくれる姿が、なんとも可愛くてたまりません。

子どもたちの成長はとても早く、昨日まで出来なかったことや話せなかったところが、今日出来るようになったり話す言葉が聞き取れるようになったり、遊びの中でも真剣に遊び始めたかと思って見ていると、急に立ち上がり「せえんせえ、」と自分の喜びや発見を知らせてくれた

り…。数えきれないほどの笑顔や驚きで溢れている。日常の子どもたちの様子を保護者の方と共有しあえることに喜びを感じています。

子どもたちの「今」という瞬間を大切に、新たな気づきや学びに目を向け、理解しようとする心を忘れないようにしたいです。そして、職員一人一人が成長し続けていく子どもたちに寄り添い、気持ちを受け止め「安心して登園・生活できる場所」であると思える、「とりっころん」でありたいと思います。

今日も「おはよう」の挨拶が始まる一日が温かい笑顔で溢れますように



# 当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記のとおりです。

心より感謝し、ご報告申し上げます。

## 寄 付 者 (R 6. 4.23 ~ R 6.11. 9)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
(有)岩田小型運送	郡 ひろ子	東 邦子	株式会社 ヤマネ機材
(有)鳥取システムサービス	小 原 知子	ひとみ音楽教室	代表取締役 山根 克仁
(有) 柏 木 電 器	齋 藤 禎一	代 表 藤村 ひとみ	株式会社 信勝丸漁業
Minami English School	山陰酸素工業株式会社	袋川をはぐくむ会	代表取締役 山岡 寛人
秋 崎 るり子	鳥取支店支店長 山本 一徳	藤 井 重 明	巻 田 豊
浅 野 和子	塩 崎 五 生	藤 井 秀 樹	岩 田 美 代子
いしど歯科クリニック	柴 田 和 仁	藤 井 善 臣	亀 本 良 一
井 須 尚 紀	社会福祉法人一粒会	古 川 潤 一	吉 成 寺
磯 田 教 子	理事長 花崎 みさを	前 田 昭 道	芹 沢 美 保子
伊 田 美 可子	大雲院地藏盆子ども夜店	前 田 俊 和	原 井 雅 子
井 手 添 敦	田 賀 由 美子	前 田 洋 子	原 井 た き 代子
伊 藤 祥 子	高 橋 智 鶴	マザーズ・パーム	光 田 澄 子
医療法人社団 広田歯科医院	高 橋 会 計 事務所	小 原 幸 恵	広 谷 笑 子
理事長 廣田健太郎	高 橋 計 岑	小 松 下 暢	江 谷 孝 明
岩美町民生児童委員	竹 内 一 昭	圓 山 巖	高 力 房 枝子
北 尾 安 範	竹 下 努 宏	三 木 康 二	山 下 孝 子
上 嶋 純 子	竹 本 芳 宏	南 利 子	山 口 ひろみ
才 才 ウ ラ マ ナ ミ	田 中 昭 宏	み な み 歯 科 医 院	山 田 敏 明
岡 垣 七 宝 研 究 所	田 中 和 子	石 田 雅 栄	山 本 智 丈子
岡 田 公 則	田 中 比 露 美	ム ス 力	持 末 邦 子
岡 田 信 康	谷 口 香 与 子	無 名 氏	柴 田 妙
柏 女 靈 峰	タニグチ・ヘア・サロン	森 田 元 章	社会福祉法人 あすなろ会
片 村 俊 子	谷 口 義 明	八頭更生保護女性会	小 竹 原 寛 子
加 藤 和 枝子	玉 木 敏 久	会 長 西本 ひろ子	小 松 永 祥 子
金 森 千 恵子	田 村 利 江	山 田 悦 子	小 松 永 隆 夫
株式会社 コタニ	中 国 労 働 金 庫	山 田 金 庫 店	常 井 幹 生 子
代表取締役 小谷 憲司	理 事 長 戸 守 学	山 田 弘	神 谷 夏 子
株式会社 清 水	天 徳 寺	山 本 大 順 ( 静 彦 )	杉 森 忠 篤
株式会社 竹内クレーン工業	鳥 山 玲 子	有限会社 岸田ガラス店	勢 木 宇 太 郎
取締役会長 竹内 秀明	長 谷 賢 二	代表取締役 宮本 彰彦	正 林 督 章
株式会社 鳥取銀行	西 村 眞 一	有限会社ウコン自動車	西 伯 更 生 保 護 女 性 会
株式会社 戸 信	日 海 通 信 工 業 (株)	代表取締役 右近 謙治	西 尾 英 樹
株式会社 保健企画 ひまわり薬局	貫 名 安 子	湯 村 正 仁	川 口 正 男 子
株式会社メモワールイナバ	延 原 秀 昭	米 谷 食 品 セ ン タ ー	前 田 悦 子
川 口 明 子	端 戸 朋 子	米 山 康 枝	前 田 宏 子
川 口 ア ヤ 子	橋 本 真 澄	リセット 溝口 智子	草 野 雅 昭 子
菊 地 み つ え	花木こどもクリニック	龍 福 寺	蔵 本 美 知 子
喜 多 寿 美 子	花 木 正 史	伊 藤 文 代	村 上 悦 子
北 室 育 子	濱 本 五 十 鈴	医療法人 きむら耳鼻咽喉科医院	村 上 収 廣 子
木 村 和 子	はやし社会保険労務士事務所	木 村 寛	大 西 塚 雅 福 子
木 本 裕 治	林 義 雄	医療法人社団 荻原医院	大 塚 福 勝 子
国 富 一 郎	原 田 潤 哉	医療法人社団 乾医院	大 谷 口 勝 也 子
毛 塚 裕 之	パルス電工有限会社	理 事 長 乾 俊 彦	竹 田 江 海 子
公益財団法人 鳥取市文化財団	清 水 守	岡 本 智 鶴 子	中 嶋 哲 一 子
鳥取市歴史博物館	半 田 卓 実	下 園 裕 一	中 尾 文 裕

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
鳥取医療器株式会社 鳥取鶏卵販売株式会社 代表取締役 長田 淳 田 村 明 子 鳥取市立城北小学校 PTA会長 河上 裕司 田 中 昶 子 渡 壁 節 次 夫 渡 邊 健 雅 夫 藤 原 毅 道 芳 子 藤 原 井 道 子	畑 山 博 史 尾 田 一 壽 尾 崎 一 三 智 子 尾 崎 八 慧 子 武 安 泰 子 福 寿 泰 雄 子 福 田 泰 み ど り 福 田 下 尚 則 木 野 村 尚 卓 唯 聡 太 有 限 会 社 亀 井 堂 代 表 取 締 役 地 原 忠 実	有限会社 造園土木植清園 眞 鍋 裕 亮 高 瀨 海 二 吉 田 由 美 子 マ ダ ヤ ス キ 丸 山 順 子 増 田 千 尋 米 子 信 愛 鍼 治 療 院 (株) 岩 田 兼 商 店 河 田 瑛 子 サ ヌ ン ユ ー 技 研 工 業 (株) 尾 崎 か お る	綜 合 印 刷 出 版 (株) 浅 井 富 美 子 入 江 一 枝 影 久 眞 智 柴 田 隆 嗣 米 谷 令 子 国 際 ソ ロ プ チ ミ ス ト 鳥 取 岡 本 小 児 科 医 院 岡 本 賢 谷 垣 由 紀 恵 山 根 健 太 郎 砂 川 晋 治、 眞 理

物 品 寄 付 者

(R 6. 4. 28 ~ R 6. 11. 9)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
U F O 秋 里 店 U F O 扇 町 店 U F O 叶 店 U F O 吉 方 店 秋 崎 る り 子 明 崎 星 石 賀 正 博 市 谷 年 弘 ウォーキングクラブ未来 会 長 江 谷 孝 明 江 崎 グ リ コ (株) 第 1 S 部 荻 原 律 雄 奥 田 吉 春、 美 由 紀 金 森 興 太 郎 木 梨 サ イ ク ル 鳥 取 南 更 生 保 護 女 性 会 岸 本 美 鈴	黒 川 竜 次 (代 表 ) 総 合 建 設 T K R (株) ク ロ カ ワ セブンイレブン雲山店 (株) ぎ し E & S 創 技 建 業 子 石 上 農 業 子 桑 原 彩 子 河 本 準 一 小 谷 勝 美、 昇 平 会 子 山 王 振 興 協 議 紀 子 清 水 由 紀 院 寺 寺 久 大 大 雲 樹 院 寺 大 大 樹 隣 寺 寺 久 高 本 喜	滝 田 中 晴 小 四 田 中 皮 井 倫 手 土 野 田 正 土 皮 井 田 正 野 田 川 正 長 谷 兵 衛 養 蜂 服 部 権 真 一 八 口 一 ひ と ひ ら の 稲 村 雅 福 田 大 暢 前 松 下 暢 松 松 田 寿 隆 松 永 隆 夫	本 勉 夫 郎 子 徹 昭 場 史 ズ 会 子 眞 輔 子 一 夫 松 村 三 子 氏 佳 徹 子 友 理 子 悦 子 無 森 田 利 一 若 友 悦 子 門 司 本 部 田 悦 子 安 矢 山 田 悦 子 株 式 会 社 ヤ マ ネ 機 材 山 本 大 順 (静 彦 ) 米 田 正 雄 寺 龍 岩 寺 ル ナ ー ズ フ ロ ン テ ィ ア 橋 本 子 茂 江 寺 下 森 弘 文 白 岡 文 森 福



しかし、最高気温が35度を下回るようになってからの復活のスピードに「自然の力はやはり偉大」と改めて感じ入りました。

学園・みどり園の子ともたちが芝生のグラウンド、緑の絨毯の上で元気に遊んでいます。裸足であそんでいる子、中には寝そべっている子もいます。なにより、こけても以前のように擦り傷をしましませず、子どもたちは成長を願い、ご支援いただいている皆様のおかげと感謝いたします。今後ともご支援のほど、よろしくお願いたします。

2022年6月にグリーンスポーツ鳥取のニール・スミス代表に指導を受けながら鳥取みどり園の子ともたちと保護者のみなさんと一緒に苗(ポット)植えをしました。グラウンドに苗が点々あるだけで「これが本当にグラウンド全面を覆って緑の絨毯になるのだろうか?」と思ったものでした。それでも自然の力は強く、夏過ぎには緑がグラウンドを覆ってきました。とはいえ厚さはまだまだ...でした。2年目の2023年は芝生がグラウンドを覆ってはいるものの、厚さがまだまだ十分とは言えませんでした。

そして2024年。ニール代表に「まずは3年」と言われていたのですが、3年目の今年ようやく芝生に厚さが伴ってきました。そんな順調に芝生の成長を喜んでした矢先、大事件が...。「芝が枯れている...。やってしまったか!」暑さと乾燥に強いティフトン芝でも、35度以上の日が続くという異常な酷暑には耐えきれなかったようです。



常務理事 山本隆史 記

じゅんぽうのしげやせ



## 法人本部よりお知らせ

## 鳥取子ども学園クリスマス祝会について

例年12月に開催しております「鳥取子ども学園クリスマス祝会」は、様々な感染症の感染防止に努める昨今の状況から、これまでのように関係機関の皆様をご招待し、学園体育館で多くの皆様とクリスマスをお祝いする形での開催を当面の間見合わせることにいたしました。

コロナ禍より規模を縮小して学園内だけのリモート祝会とさせていただきますでしたが、今後はこの形態で開催してまいります。私たちと共にクリスマスをお祝いすることを楽しみにして下さっていた皆様には、誠に申し訳ございませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。

## 学園OB・OG会開催のお知らせ

冬のOB・OG会を2025年1月2日(木)18:00～鳥取子ども学園希望館教育棟で開催いたします。あたたかいものを囲み、近況を是非語り合しましょう。OB・OGの皆様、是非お越しください。

## 里親支援センター 里親家庭サポートセンターいろはのホームページ等を開設しました！

本年度4月に開設しました、里親家庭サポートセンターいろはは、様々なツールで情報発信をしております。

- 1) ホームページ <https://iroha.kodomogakuen.net/>
- 2) instagram <https://www.instagram.com/irohatottori/>

いろは HP

いろは  
instagram

## その他、社会福祉法人鳥取子ども学園は、様々なツールで情報発信をしております。

- 1) 法人ホームページ <https://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>
- 2) 鳥取みどり園ホームページ <https://midorien.kodomogakuen.net>
- 3) 鳥取みどり園 instagram <https://www.instagram.com/tottorimidorien/>
- 4) facebook ① 法人 facebook <https://www.facebook.com/toriko01>  
② 認定子ども園 鳥取みどり園 <https://www.facebook.com/tottorimidorien>  
③ 事業所内保育施設 とりっこらんど <https://www.facebook.com/torikkoland1941>
- 5) note [https://note.com/tottori\\_kodomo](https://note.com/tottori_kodomo)

法人、施設、事業所の様々な情報をこの4つのツールをリンクさせながらお伝えしておりますので、是非ご覧ください。

法人 HP



鳥取みどり園 HP

鳥取みどり園  
instagram

## ●銀行口座へのご寄付は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取子ども学園内  
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242  
代表メールアドレス：toriko@tottorikodomogakuen.or.jp

振込口座：郵便振替 01490-9-9106  
鳥取銀行本店営業部 普通預金 7645611  
山陰合同銀行鳥取営業部 普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取子ども学園 理事長 藤野 謙一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

また、銀行振込の際は領収書発行のため、お名前・ご住所をお知らせください。

## ●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部 普通預金 0405970  
口座名義：鳥取子ども学園後援会 会長 村上 亜由美

## 【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。